

座談会

新潟大学の将来と 全学同窓会の役割

5月7日午後、学長室にて柳本雄司全学同窓会相談役を進行役として、高橋姿新潟大学長、多和田孝雄全学同窓会長による座談会が開催されました。1時間余りに渡って多岐の話題について有意義な意見交換が行われました。その一部を抜粋して掲載いたします。

(発言者の敬称略)

柳 本: まずは全学同窓会の10年を振り返りましょう。

多和田: 平成15年の秋、大学の法人化の直前ですが、各学部の同窓会長が集まり、全学的な同窓会組織の創設に向けての議論がはじまりました。私は歯学部同窓会長代理、柳本さんは人文・法・経済学部の同窓会長として、全学同窓会の創設に携わりました。

柳 本: 当時、国立大学法人の評価にとって全学的な同窓会の応援も対象になるとのことで、全学同窓会創設の要望が大学側からありました。しかし、それぞれの学部同窓会は設立の時期や目的も異なりますから、利害調整、合意形成を図る苦労がありました。

多和田: いろいろ議論もし、紛糾もありました。とくに運営費、つまり同窓会費の徴収方法では意見が対立しました。ようやく各学部の同窓会が応分の分担金を拠出するルールに落ち着き、平成16年4月から全学同窓会連絡協議会が発足しました。4月17日に設立総会を盛大に行いました。

柳 本: 2年間の連絡協議会を経て、平成18年4月に全学同窓会へと移行し、この4月で10年目を迎えました。

多和田: この10年間で立ち上げた事業は、全学同窓会と大学の懇談会、同じく交流会、広報紙「雪華」、雪華支援事業、新潟大学カード、そして最近ではメールマガジン、新しい支部の設立支援（佐渡支部と沖縄支部）、転職・Uターン組を主な対象とする求人情報の提供などが挙げられます。

柳 本: 全学同窓会が組織されてよかったことは何ですか？

多和田: 以前は学長と同窓会が直接対話する機会はありませんでした。各学部の同窓会は学部の状況は分かりますが、大学全体のことは分からず、卒業生にも伝わりにくかったと思います。

高 橋: それは大学も同じです。従前ですと、卒業生の声は学部の方へは伝わりますが、学長まで届きませんでした。卒業生はしっかり大学を見ています。厳しく、優しく、応援してくれていますので、卒業生からいただく意見は大変重要です。

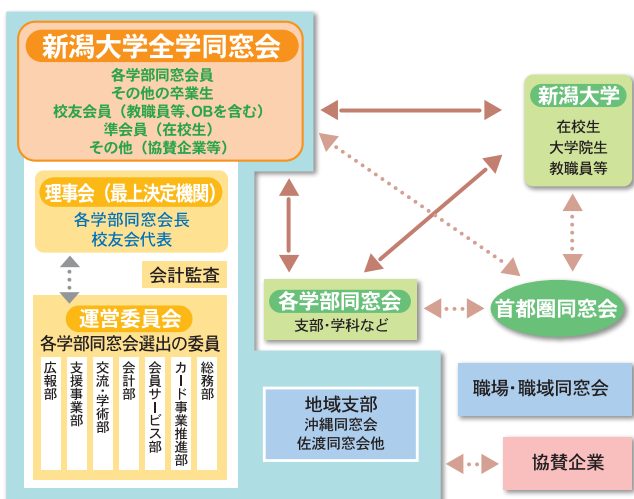
多和田: 大学の社会的な評価も卒業生の活躍によるところが大きいと思います。

高 橋: そうですね。新潟大学の名が上がります。そして、良い学生が集まって、良い循環が生まれます。一方で、大学がしっかりしないと卒業生にも迷惑がかかります。

多和田: まさに大学と同窓会は一蓮托生ですね。

柳 本: 最近の話題として、国立大学の財政問題があります。新潟大学の現状はいかがですか？

高 橋: 非常に厳しい状況です。ご承知のとおり運営費交付金は年々減額されています。政府予算における科学研究費等の競争的資金は増加しており、応募の機会も増え、使い勝手も良くなっています。しかし、運営費交付金の減少分を補うだけの



競争的資金は獲得できていません。各種の助成金・受託研究費も含めて外部資金の獲得が伸びていない状況です。

多和田： 競争的資金を獲得できれば、獲得できなかった分野の研究費を捻出できますか？

高橋： そう単純ではありません。例えば、高額な競争的資金を獲得して大型の実験装置を導入するには、設置する施設・インフラの設備、実験をサポートする人材の人件費など、むしろ大学からの補助が必要になります。



全学同窓会長
多和田孝雄
1976(昭和51)年 歯学部卒

多和田： 短期間では成果の出ない分野もあります。短期間で成果を出そうとして無理をした結果、さまざまな不正も起こって社会問題になっています。

柳本： いわゆる“強い分野”とそうでない分野とのバランスはどうされますか？

高橋： 大学の目指す方向をしっかりと打ち出す必要があります。大学の目指す方向と合致していれば、学長

裁量経費等の資金を充てて支援します。また、大きな外部資金を獲得すれば必ず間接経費が計上されますので、大学の財政も潤うことになります。ただし、恒常的に大型資金を獲得できるとは限らないので、運営費交付金減少の対策も必要です。これまでは、その対策が不十分でした。そこで、今年は予算の組み方を大胆に変えました。学長裁量経費は必要など、今は“弱い分野”でも新潟大学らしい特徴のある教育や研究に投入します。

柳本： 地域社会との関係はいかがですか？

高橋： 大学は教育、研究、社会貢献が活動の三本柱です。この中で、社会貢献が少し弱いと認識しています。「ダブルホーム」という教育プログラムでは、学生と地域住民との交流が深まり、地域に貢献しつつ学生にも良い勉強になっています。医療をはじめ、教職員の仕事そのものが社会貢献になる場合もあります。足りないのは、受託研究・共同研究を通じた社会貢献で、企業との交流を広げ、深める必要を感じています。

柳本： 文部科学省は来年度から国立大学を「世界最高水準の教育研究」、「特定の分野で世界的な教育研究」、「地域活性化の中核」の3グループに分類するそうですが、新潟大学はどのグループになりますか？

高橋： 本学は「地域活性化の中核」グループとなります。現

平成25年度会計報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

平成26年度第1回全学同窓会理事会(6月26日)において25年度一般会計の監査結果報告が行われました。審議の結果、承認されました。

収入の部

費目	予算額(円)	実績(円)
繰越金	8,341,992	8,341,992
賦課金	270,000	270,000
分担金	5,000,000	5,000,000
協賛金	2,100,000	2,160,000
一般広告掲載	230,000	400,000
カード事業貸付金回収	100,000	200,000
賛助会費	6,000,000	4,731,000
受取利息	3,000	1,147
合計	22,044,992	21,104,139

支出の部

費目	予算額(円)	実績(円)
大学等支援費	1,500,000	596,500
学生支援費	3,500,000	3,000,000
事業特別会計	7,000,000	7,000,000
広報紙	2,000,000	1,988,522
会員等サービス事業	500,000	381,882
事務局費	5,110,000	4,226,248
予備費	2,434,992	40,000
小計		17,233,152
次年度繰越金		3,870,987
合計	22,044,992	21,104,139

全学同窓会雪華支援事業(平成26年度)

皆様からの賛助会費をもとにした公募型の学生・大学支援事業です。平成26年度は単年度型(A)20件、複数年度型(B)1件を採択し総額351万5千円を助成しました。

雪華支援事業(A)

アーチェリー部	アーチェリー部練習環境の整備 機材保管庫他
アメリカンフットボール部	リーグ戦優勝と上位リーグ昇格に向けた練習環境の向上
オリエンテーリング部	世界大学選手権に向けての強化
バレーボール部	男子部はインカレ上位入賞に向け、女子部は一部昇格に向けての強化練習費のため
ラグビーフットボール部	ルール改正に伴う、定期戦及び大会公式戦の試合用ユニフォームの新調
ヨット部	第69回長崎がんばらんば国体に向けた選手強化と艇備品の購入
弓道部	北信越大会優勝、全国大会出場のための練習環境の充実
卓球部	「新潟大学オープン卓球大会」を始めとする卓球部の県・市卓球連盟への協力および各種大会における活躍、新潟県のジュニアの強化・育成
ラクロス部	ラクロス競技のさらなる向上と、全国大会出場のための道具、設備の補充、遠征の費用
水泳部	全国国公立大学選手権上位入賞・日本学生選手権団体権獲得・多数選手出場に向けた練習環境の充実
探検部	2014 ラフティングジュニア・ユース世界大会
陸上競技部	全日本インカレ、全日本大学駅伝、全日本大学女子駅伝、出雲駅伝出場ならびに入賞に向けた活動の強化
基礎スキー部	全国大会で優秀な成績を収めるため、積極的な練習参加を促すこと
ロボコングループ	NHK大学ロボコン上位入賞に向けた物品の強化
科学技術研究部	
吹奏楽部	第50回定期演奏会開催、第50回定期演奏会記念事業
クラシックギター部	定期演奏会の充実に向けて、新しい楽器(ギター)の購入
NEXT, Formula Project	全日本学生フォーミュラ大会参加のための車両製作
合唱団	全日本合唱コンクール全国大会出場、第50回定期演奏会に向け充実した活動をするため
体操競技部	大会に向けた練習設備の強化、装備の補充
附属図書館(中央図書館)	中央図書館の視聴覚資料の整備充実

雪華支援事業(B)

キャリアセンター	社会人と学生の交流事業
----------	-------------



新潟大学長
高橋 姿
1976(昭和51)年 医学部卒

在の社会構造は太平洋側に偏っていますが、近い将来、さまざまな意味で複数路線、つまり太平洋側の社会機能を補完し、緊急時のバックアップ機能として日本海側のラインは重要になります。日本海側の大規模総合大学として、その中核を目指しています。

多和田: 地域を限定した場合、大学の発展にとってマイナスになりませんか？

高橋: 日本海側ラインを中心に東アジア・東南アジアまで視野に入れた環東アジアの地域圏を考えています。幸いなことに、本学はロシア、モンゴル、韓国、中国との交流もあります。

多和田: 人口減少という地域の課題もあります。大学として何か対応を考えていますか？

高橋: 本学の県内出身学生は約4割です。県外に就職する県内出身者もあり、新潟に就職する県外出身者もありますが、約4割は新潟に就職しますので、転出入は拮抗している状況です。人口減少の問題で言えば、もっと人材を新潟に残す必要があります。地元への就職の働きかけだけではなく、インターシップ等を通じて学生に地元の優良企業を知ってもらう取り組みが必要です。私自身も経済界の集まりに積極的に出席して大学の人材育成の考え方をお伝えし、また企業側のニーズを把握したいと考えています。

多和田: 地元の行政との連携はどうなっていますか？

高橋: 新潟県や新潟市、佐渡市、小千谷市、刈羽村と包括連携協定を締結しています。しかし、県で言えば、協議会が一度も開催されていません。先日、知事とお会いした際にも、協定を実質化したいとお伝えしました。もちろん多くの教員が各種審議会・委員会の委員を務められ、行政の活動に貢献しています。ただし、これらは教員の個人的な繋がりによるところが大きく、大学が組織的に取り組んでいるわけではありません。大学として優秀な人材を委員に推薦し、あるいは地域の発展に寄与するアイデアを提言にまとめるなど、組織的にも貢献したいと考えています。

柳本: 同窓会に対して何か要望はございますか？

高橋: 全学同窓会にはご寄附もいただいております。深く感謝申し上げます。正課の教育に充てる予算も厳しい中、課外活動を支える資金の確保は難しくなっています。筋力トレーニングの設備や雪華支援事業は大学としても大変助かっておりますので、引き続き支援をお願いいたします。社会貢献にも外部資金の獲得にも繋がるため、受託研究・共同研究を推進する必要がありますが、実はここに本学の弱点があります。他大学と共同研究

している県内企業に何うと、本当は新潟大学と共同研究したかったとおっしゃいます。大学としてもニーズの発掘に努力しますが、同窓生に仲介していただくと助かります。

柳本: 全学同窓会から大学への要望はございますか？

多和田: 同窓会への帰属意識の問題です。新潟大学卒業生としての仲間意識、同窓会への帰属意識は大学時代の学生生活が大きく影響すると思うのです。

高橋: その通りです。大学時代に良い仲間を得ると、卒業後も交流が続きます。今でも私はスキー部の仲間と妙高の池ノ平で2年に1回集まっています。同窓会への帰属意識の根幹となる仲間意識は充実した大学生活の中で生まれ、在学中に和が広がると思います。同窓会の温かいご支援をいただきながら、学生の活動を応援していきたいと思えます。

多和田: 最近は何事もランキングにする風潮ですので、良い学生を集めるためにも就職状況、資格取得状況など、情報をわかりやすく提供してほしい。

高橋: 卒業生の活躍を知ると、良い受験生も集まりますし、在校生も教職員も誇らしい気持ちになります。帰属意識にも関係します。同窓会からも卒業生のご活躍をいろいろ教えてほしい。

多和田: そうですね。同窓会としても情報収集に努めます。

高橋: 首都圏同窓会のバックアップもあって、首都圏では学生向けの就職ガイダンスもあります。私立大学は昔からこういう活動が強いですね。

多和田: ゆくゆくは私学にも負けない同窓会になるよう頑張らないといけませんね。

柳本: この10年間、全学同窓会は新潟大学の最強のサポーターとなるべく努力してまいりました。これからは双方の直面する課題などについての情報共有も必要です。

多和田: 意見交換の場として大学と全学同窓会の懇談会があります。しかし、大きい会なので、ややもすればセレモニー化してしまいます。今回のように、ざっくばらんに話す機会があってもよいと思えます。

高橋: テーマを絞って、少人数で意見交換する場を設けることは可能です。

多和田: 新潟大学の発展に向けて、全学同窓会も微力ながらお手伝いしたいと思います。

柳本: そろそろお時間のようです。本日はお忙しい中、貴重な時間を割いてくださり、ありがとうございました。



全学同窓会相談役
柳本雄司
1963(昭和38)年 人文学部卒

卒業生から学生への支援の輪が徐々に浸透・拡大中

1949年国立大学として発足した新潟大学に、50年の歳月を経てようやく、2004年全学的な同窓会組織（連絡協議会）が発足し、それまで殆ど顧みられなかった卒業生からの全学的な学生支援、全学的な大学支援がはじめて実現可能になりました。

全学同窓会では、各学部同窓会から推薦された運営委員が運営委員会を組織し、部会ごとにテーマを決め、新しい事業を検討しました。大学は本部建物に事務局スペースを提供し、同窓会活動を側面から支援しました。

各学部同窓会は全学同窓会の事務局機能を賄うため、入学定員割合で毎年527万円を費用分担しました。このことにより、全ての卒業生の全学同窓会会費が自動免除されることになりました。

2004年全学同窓会は、唯一の機関紙として広報紙（本紙）の発行を開始し、印刷費用を工面するため、企業名掲載を条件とし

て企業から協賛会費を戴くようにしました。おかげで、卒業生の名簿を管理する学部同窓会が卒業生への配布に協力することで、独立採算で広報紙を発行できています。同年には全学同窓会HPも運用開始しました。

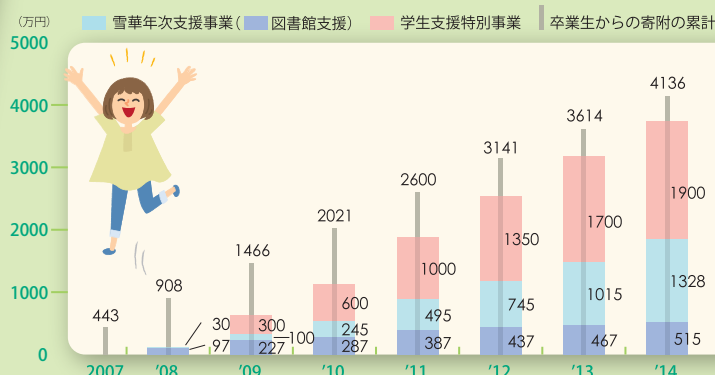
2007年には、卒業生への便益と在校生への支援を目的として、入会費・年会費永年無料のゴールドカード型のクレジットカード「新潟大学カード」の発行を開始しました。様々な特典が自動付帯するだけでなく、卒業後に直ちに取得できるなど、他大学に類をみないカードで、既に3000人以上が入会しました。同年から卒業生向けに、一口2000円の賛助会費納入もお願いし始めました。毎年3000名以上の卒業生からの寄付金の大部分は、「雪華支援事業」（公募型）と「学生支援特別事業」の名目で、学生支援に充てられています（別表参照）。

「雪華支援事業」はサークル活動を通じての学生支援（写真参



新潟大学オリエンテーリング部の世界選手権出場
(2014年度雪華支援事業)

卒業生からの賛助会費納入と学生支援・図書館支援の累計



インターネットは **ASTEC**

現在、新潟大学の五十嵐寮・六花寮にてインターネット設備を提供させていただき多くの学生様からご利用いただいております。その他に、NTTフレッツサービスのプロバイダ「**aisu**」として一般のユーザーにもサービスを提供しております。

メールアドレスが10個まで無料で使える！
インターネットプロバイダ **aisu** なら グローバルIP(固定IP)が+500円で持てる！

月額 **1,000円** ※ (税別) フレッツADSL接続
月額 **1,400円** ※ (税別) フレッツ光接続

※サービスのご利用には、アクセス回線としてNTTのフレッツ回線が必要となります。フレッツ回線のお申込みがこれからという方はNTT東日本特約店の当社にて承ります。

お問い合わせはこちら
株式会社 **ASTEC** 0120-970-876
ホームページ <http://www.k-astec.co.jp>

CORONA

明日のうつくしさへ、
“オアシスチャージ”
お肌・環境・気分をトリプルケア。

ナチュラルクラスターイオンで、お部屋の空気をきれいにしなが、お肌にたっぷりの潤いを。 **ナノリフレ**

nano refre

株式会社 **コト** 本社 / 〒955-8510 新潟県三条市東新保7-7 TEL0256(32)2111(代)

照)で、新潟大学の学生の80%以上が何らかのサークルに加入していることを背景にしており、すべてのサークルは自由に応募できます。審査委員会を設け、慎重に助成対象を選定していますが、大会成績が振るわずとも社会貢献での申請も可能です。サークルに加入していない学生も少なからず居ることも考慮し、学生全員が利用する図書館への支援も重視しています。

毎年学生サークル代表と懇談会を開催しており、学生側から提案のあった「筋力トレーニング」施設充実の要望に応え、2013年に学生支援特別事業として、トレーニング機器購入費用1000万円を新潟大学に寄付しました。各サークルOBも呼応して約200万円を寄付しました。これを受け、2015年新潟大学が専用のトレーニング施設を建設しました。学生は卒業生からの贈り物を大変喜んでおり、卒業後には支援者の側に立ってくれることでしょう。



新潟大学探検部のラフティング・ジュニアユース世界大会出場 (2014年度雪華支援事業)

新潟大学五十嵐地区に筋トレ施設完成し式典 2015年5月15日



卒業生からの寄付(全学同窓会からの1000万円と運動系サークルOBからの200万円)で、怪我の防止や受傷後のリハビリを目的とする学生向けの筋力トレーニング機材を充実させることができました。効率よく運用できるようにと、新潟大学は専用のトレーニング室を体育館の隣に建設し、5月に竣工式典が催されました。運動系学生サークルは連携して共同で施設を運用し、サークルOBの協力も得て、将来の機器更新に備える計画です。



トレーニング室のスペース:約240平米

ひらせい ホームセンター

生活費を近所で節約できるお店

クマぞうの うくた便

 手ぶらで帰れる

◎配達範囲 5km以内
 ◎配達料金 無料
 ひらせいポイント会員様 200円 (何点でも可)
 非会員様

配達日: 月・木曜日

新潟市江南区いぶき野2-1-1 TEL025-383-4141(代) <http://www.hirasei.net>

新潟県信用組合

地域社会の発展に貢献する

地元を見つめ、地元とともに歩み、
 地域の発展にベストをつくす
 あなたの町の
 けんしん です

新潟県信用組合
 〒951-8114 新潟市中央区営所通一番町302番地1 TEL 025-228-4111 www.niigata-kenshin.co.jp/

全学同窓会創立10周年を迎えて

新潟大学に 期待すること

前全学同窓会長
内田 力

1968(昭和43)年 工学部卒



全学同窓会が創立10周年を迎えられ、心よりお慶び申し上げます。

私は、平成10年から24年までの14年間に亘り工学部同窓会(悠久会)の理事長を、また、平成20年4月から24年3月の4年間は併せて全学同窓会会長を務めさせていただきました。在任期間中に、工学部同窓会と全学同窓会に関わる幾つかの大きな出来事がありました。主なものとして、平成15年の工学部創立80周年に際して実施された新潟大学科学技術交流悠久会館の建設事業(平成19年3月に会館竣工)や、平成18年4月の全学同窓会の発足などが挙げられます。また、平成23年3月に発生した東日本大震災により、平成22年度の卒業式が中止となり、例年同日に開催していた工学部卒業祝賀会も中止となりました。これらは大変に残念な出来事ではありましたが、その後工学部同窓会は後援会と協力して震災のための奨学給付金制度を直ちに立ち上げ、学生支援をさらに拡充させることができました。このように近年は、全学同窓会や工学部同窓会による学生支援制度が大変に充実してきています。これは同窓会と大学との連携が、益々重要になってきていることの証しであると思っています。

平成16年度に大学が法人化され、10年以上が経過しました。その間に、大学を取り巻く状況は大きく変化してきております。今後は各大学が独自の特徴を活かし、如何に個性を伸ばしつつ発展して行くかが問われるようになるものと思います。母校新潟大学には、地域や産業界と協同しながら、新潟と世界とをつなぐ研究や人材育成をより一層推進して行かれることを期待しております。その際には、同窓会(同窓生)が必ずやお役に立てるものと思います。これまで以上に母校と同窓会とが連携を強め、共に発展して行くことを願っております。

全学同窓会 創立10周年 を祝して

新潟大学名誉教授
(全学同窓会創立時学長)

長谷川 彰

1960(昭和35)年 理学部卒



新潟大学全学同窓会が創立10周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

平成16年4月の国立大学法人化を機に、教育と研究とならび、社会貢献が大学の第三の使命として位置づけられました。大学が社会との関係を深めていく上で同窓会との連携が不可欠であるとの共通認識のもと、法人化と同時に全学同窓会連絡協議会が設立され、二年間の準備を経て全学同窓会が発足したことは誠に意義深いことでした。

現代社会が学生たちに求めているのは、専門的知識や技術は当然のこととして、人間としての総合的能力、すなわち人間力をも求めるようになってきています。ここに社会人としての先輩である皆様が寄与する余地があります。課外活動やインターシップへの支援、各界で活躍する卒業生の講話や在校生との対話など、将来を担う人材の育成へのご協力に期待したいと思います。

蓄積された知的資産の社会展開を目指し、学内に知的財産本部を設置するとともに、(株)新潟ティーエルオーへの出資も行いました。その成果の一つが「クイック水素ガス検知センサーの発明」であり、平成18年度第4回産学官連携功労者表彰で文部科学大臣賞を受賞したことは幸先よいスタートとなりました。イノベーションに基づく地域活性化への期待は増すばかりであり、特に産業界で活躍される方々のご協力を必要としています。

地方の人口減少が止まらず、それが地域経済を縮小させ、さらに人口減少を加速するという負のスパイラルが危惧されています。地域拠点大学としての責務を担う本学には、卒業生の地元定着率向上などにおいて地方創生の一翼を担うことが求められています。社会が大きく変化する中、大学の第三の使命に対する期待は高いものがあります。皆様は、母校に対する熱い思いに立ち返っていただき、一層のご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

全学同窓会の益々のご発展を祈念いたします。

新潟大学全学同窓会への賛助会費納入のお願い

全学同窓会は新潟大学全体の発展と社会への貢献、会員相互の連携と親睦を目的としています。全学同窓会は年会費を設定せず、会員からの賛助会費(任意)、各学部同窓会からの拠出金、企業・団体からの協賛会費で運営されています。ついては、別添の「新潟大学全学同窓会への賛助会費納入のお願い」の趣旨に御賛同いただき御支援をお願い申し上げます。

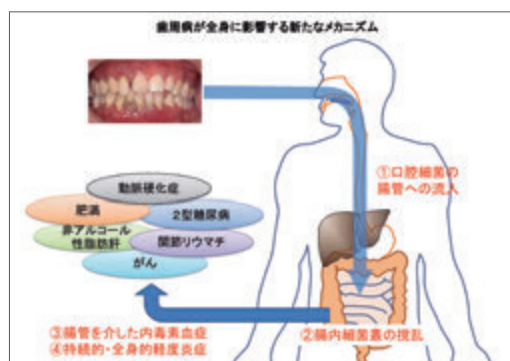
歯学部

歯周病と全身疾患の不思議な関係

私たちの口の中、腸管などの粘膜面、また皮膚には非常に多くの細菌が棲息しており、これらを常在細菌叢と呼んでいます。私たちとそれら細菌は互いに平衡を保ち、共生関係にあります。中でも腸管の中には数百種類、100兆を超える細菌が棲息しており、エネルギーの供給や腸管免疫機能のバランスを保つという重要な働きをしています。しかし、その平衡関係が崩れると潜在的に病原性を持った細菌が優勢になって、肥満、糖尿病、動脈硬化性疾患、関節リウマチ、ある種のがんなど実に様々な疾患と関連することが明らかになってきました。

歯を失う最大の原因である歯周病は、口の中に棲息する細菌のバランスが崩れて起こる病気ですが、歯を失うだけでなく、様々な全身疾患のリスクを高めることがわかってきました。おもしろいことにそれらの疾患は、腸内細菌のバランスが崩れて起こる病気でもあったのです。歯周病の患者さんの唾液中には歯周病原細菌を含む多くの細菌がいます。私たちは日に1~1.5Lもの唾液を飲み込んでいます。我々の研究グループは唾液中に含まれる歯周病原細菌が腸内細菌のバランスを崩し、様々な新患のリスクを高めるのではないかと考えました。

マウスを使った実験の結果、ある種の歯周病原細菌は腸内細菌叢を攪乱するとともに、腸のバリア機能を低下させることが明らかになりました。その結果、腸内細菌由来の内毒素が血中に入り、肝臓や脂肪組織に軽微な炎症を持続させ、糖尿病の原因であるインスリン抵抗性を誘導することもわかりました (Scientific Reports 2014: 図)。



これらの結果は口の健康が全身の健康に直結することを示しています。その後の研究でも興味深いデータが蓄積されてきています。詳細な解析を進めて、健康長寿に寄与できる新たな治療法の開発に結びつけることが大きな目標です。

(口腔保健学分野：山崎和久)

経済学部

日本酒の海外展開：今後のさらなる拡大に向けて

近年、日本酒が海外において注目を集めています。ワインやビール、ウイスキーは世界中で消費されていますが、日本酒のグローバル化は、他のアルコール飲料に比べて遅れをとってきました。しかし、日本国内での消費は右肩下がりであるなかで、近年の日本食ブームとともに、徐々に世界各地で普及し、世界での消費量は2003年の8,269klから2013年には16,202klとなり、この10年で約2倍に増加しています。



▲写真出所 <http://www.niigata-kankou.or.jp/shiru/shoku/index.html>

今後、これまで以上に日本酒が海外で消費されるためには、どういったことが必要となるのでしょうか？日本酒は、嗜好性の高い「文化製品」です。マーケティングの観点から言えば、いかに広告宣伝をして消費者に製品を認知させるかという点が重要となるでしょうが、日本酒を「文化製品」として捉え、海外での日本酒の消費の文化や日本酒の受け入れられ方を理解する必要が出てくるでしょう。さらには、どこでどのようにつくるかという「ものづくり」の観点を入れ込むことも重要となります。販売先国の人たちに合う味を開発する必要がどの程度あるのか、海外での製造はどこまで可能か、といった点です。

これまで海外での販売に成功した企業をみると、「誰に(文化的背景の理解)」「何を(マーケティング戦略)」「どうやって(ものづくりの方法)」の流れが論理的につながる「ストーリー(物語)」が成立している場合が多く、「誰に」「何を」「どうやって」提供するのには「文化」「マーケティング」「ものづくり」の要素が複合的に絡み合っている決まりです。

新潟県は、日本酒の生産量全国第3位、蔵元数全国第1位の日本酒の一大生産地です。新潟をはじめとする全国各地の日本酒が、今後いかにして海外で消費されていくのか、そのプロセスを探究することは、日本酒好きの研究者の知的好奇心をくすぐる大きな研究テーマとなるのです。

(経営学科：岸 保行)

私たちが新潟大学を応援しています

秋田厚生医療センター、旭カーボン(株)、(株)アステック、(株)アツマテクノス、ANAクラウンプラザホテル新潟、(株)磯部ハイテック、(株)伊藤商会、(株)牛木組、エアブラック(株)、金井度量衡(株)、共立印刷(株)、(株)考古堂書店、(株)コロナ、近野茂公認会計士事務所、佐藤食品工業(株)、沢矯正歯科医院、(株)サンケイ情報ファシリティ、三幸製菓(株)、(株)三条機械製作所、JA新潟厚生連、(有)信成科学、進展工業(株)、新日本有限責任監査法人新潟事務所、信楽園病院、スズキ商事(株)、諏訪湖畔病院、(株)第四銀行、(株)高田建築事務所、高橋整形外科、(一財)竹田健康財団、田辺建設(株)、有限責任監査法人トーマツ新潟事務所、(株)トップカルチャー、新潟県信用組合、新潟サンセルフ、新潟信用金庫、新潟大学生活協同組合、新潟ダイヤモンド電子(株)、新潟中央青果(株)、新潟メスキュード(株)、日東アリマン(株)、日本精機(株)NS悠久会、(株)パイオニア、(株)博進堂、(株)島山種苗園、(株)ヒウラ、(株)ひらせいホームセンター、新潟税理士法人深滝合同事務所、(株)福田組、(株)不二産業、(株)ブルボン、北越紀州製紙(株)、北越工業(株)、ホテルラングウッド新潟(旧チサンホテル)、八洲設備工業(株)、(株)リンコーコーポレーション

協賛企業56社(平成27年3月31日現在)

同学同窓会のメールマガジン

購読希望の方は以下の要領でメールにてお申し込みください。

メールのタイトル 同窓会メルマガ配送希望

メールのあて先 n-zendoso@adm.niigata-u.ac.jp

メールの本文

- あなたのメールアドレス(携帯電話以外)
- あなたのお名前 ●卒業(修了)年と学部(研究科)

新潟大学からのお知らせ

魚沼地域医療教育センターを開設しました

6月1日(月)に開院した魚沼基幹病院(設置:新潟県、運営:一般財団法人新潟県地域医療推進機構)に、新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センターを併設する形で開設しました。



センターの看板を掲げる(左から)鈴木病院長、高橋学長、牛木医学部長

魚沼地域医療教育センターは、県からの要請を受け、地域医療における高度医療の提供及び安定的な医師確保、そして診療活動を通じた教育・研究及び医師の養成を目的としています。大きな特徴としては、総合診療及びそれらを活かした多様な研修プログラムを用意することで、全国からモチベーションの高い研修医が集まり、地域医療・プライマリケアへの対応能力を有する総合診療医や高度専門医の安定的な確保及び輩出が可能となり新潟の地域医療に大きく貢献することが期待できます。

工学部のロボコンチームが「NHK学生ロボコン2015」で準優勝しました!

工学部のロボコンチーム「科学技術研究部(カギケン)」が、6月7日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)で開催された「NHK学生ロボコン2015」において準優勝しました。

この大会には、ビデオ審査を通過した全国の大学・高専から20チームが参加し、ロボットによるバドミントン"ROBOMINTON"を課題にトーナメント方式で競技が行われました。2年ぶりの本選出場を果たした「科学技術研究部(カギケン)」は、シードチームである京都工芸繊維大学を相手に初戦を突破し、金沢工業大学と横浜国立大学を破って決勝に進みました。決勝では惜しくも早稲田大学に2-5で敗れましたが、準優勝に輝くとともに、技術的に優れた大学に贈られる特別賞を受賞しました。



「NHK学生ロボコン2015」で熱戦を繰り広げた「科学技術研究部(カギケン)」

公式Facebookページを開設しました

日常のトピックのほか、四季折々のキャンパス内の風景など新潟大学をもっと身近に感じていただけるコンテンツを発信していきます。ホームページのトップにある以下のバナーをクリックしてください。多くの皆様の「いいね!」をよろしくお願いいたします。



新潟大学全学同窓会からのお知らせ

新潟大学全学同窓会 設立10周年記念行事開催のご案内

- 日時:平成27年10月24日(土)
- 場所:ANAクラウンプラザホテル新潟(新潟市中央区万代5-11-20)

【記念講演会】

14:00~15:30 **【入場無料】**

「発酵食品の神秘」

講師/小泉 武夫氏 (東京農業大学名誉教授・特定非営利活動法人発酵文化推進機構理事長)

●プロフィール●

1943(昭和18)年、福島県の酒造家に生まれる。現在、鹿児島大学、琉球大学、広島大学、石川県立大学の客員教授。専門は発酵化学、醸造学、食文化論。農学博士。著書は『発酵』(中公新書)、『発酵食品礼賛』(文藝春秋)など。小説を含め単著で138冊を数える。日本経済新聞に『食あれば楽あり』を23年にわたって連載中。



講演の抄録

酒、チーズ、納豆等の嗜好食品から医薬品、洗剤の製造、さらには抗生物質、アミノ酸、ビタミン、微生物タンパク質の製造まで、発酵の作用は広く利用されています。自然界における環境浄化もまた微生物の活動に依存する領域で、発酵は地上の動植物の生存に不可欠の作用なのです。フグの毒抜き、中国の「奇跡の発酵」等、世界各地の発酵文化に今日のバイオテクノロジーの原点を探り、目に見えない微生物の神秘的世界を語ります。

【記念式典】

16:00~16:50

【祝賀会】

17:30~19:30 会費/6,000円[着席スタイル]

●インフォメーション

【講演会・記念式典・祝賀会の申込方法】

記念講演会、記念式典、祝賀会別に参加希望を明記し、郵送・FAX・メールで全学同窓会事務局へお申し込みください。いずれの会も新潟大学関係者以外の方でも参加できます。

※参加申込みの詳細についてはホームページの中でご案内する予定です。

締め切り:9月15日(火)

申込先:新潟大学全学同窓会事務局

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地

☎ 025-262-7891 FAX 025-262-7892

Eメール dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

「新潟大学カード」入会のご案内

- 新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携して「新潟大学カード」を発行しています。

入会費
年会費
無料



この機に是非ともご入会を!

※詳しくはホームページ <http://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/card/> をご覧ください。

新潟大学全学同窓会

事務局:〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地
TEL 025-262-7891 FAX 025-262-7892
E-mail dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp
<http://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/>

運営委員会広報部より:多くの皆様のご尽力によって、平成18年、母校・新潟大学をサポートする最強の応援団として全学同窓会は設立され、今年で10年目を迎えました。この間、大学を取り巻く環境も激変し、厳しい競争を勝ち抜くための様々な改革が進められています。全学同窓会も平成20年から雪華支援事業をスタートさせ、微力ながら学生たちの活動や公益性の高い図書館の活動を側面から応援してきました。今後、全学同窓会の果たす役割はますます大きくなります。母校と後輩たちのために、なお一層のご協力をお願いいたします。